



2008年度分野横断的演習の実施報告について (速報版)

2009年2月3日(火)
内閣官房 情報セキュリティセンター
(NISC)

(1) 実施日時・場所

2008年12月1日(月) 12:30~18:30
(株)三菱総合研究所 2階セミナー室、会議室

(2) 実施目的

IT障害発生時における重要インフラのサービスの維持・早期復旧や事業継続等に向けた課題抽出

(3) 実施概要

各分野あるいは事業者毎に小部屋に分散し、メール、電話、ホームページを用いて情報交換を実施
詳細シナリオは、事務局のみが把握し、プレイヤーにはIT障害の原因を開示せず、状況付与のみを行うと
いう現実に近い状況で実施
演習終了後、意見交換会を実施

(4) 参加者

主な参加機関は以下の通りであり、プレイヤー、事務局等合わせて136名が参加

(政府)

内閣官房情報セキュリティセンター、重要インフラ所管省庁

(重要インフラ分野:10分野)

情報通信、金融、航空、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス、医療、水道、物流

(セプター:10分野14セプター)

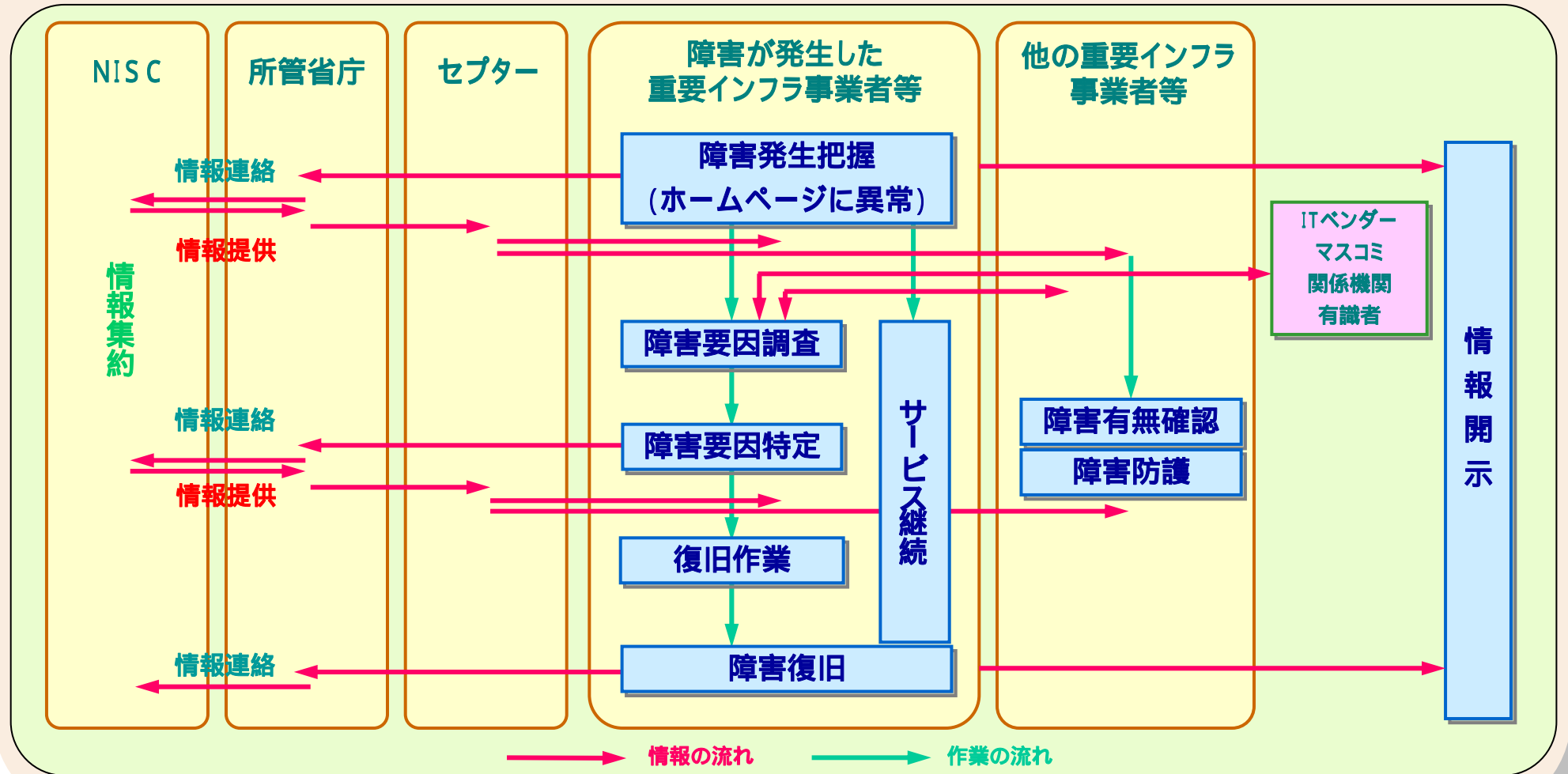
通信、放送、銀行、生保、損保、証券、航空、鉄道、電力、ガス、政府・行政サービス、医療、水道、物流

(関係機関)

(有識者)

2. 演習参加者の活動

- (1) 障害の原因は開示せず、原因も複数設定し、障害発生時刻も異なる設定としたが、事前の準備ならびに演習時に通信事業者、ITベンダー等から情報収集に努めた結果、全事業者等が原因を特定するに至った。
- (2) 情報は、情報連絡や情報開示のタイミングに差異は有るものの、概ね下記のようなフローに沿って流れており、官民の連携態勢が概ね整っていることを確認した。



3. 検証課題に対する主な意見

| 検証課題 | 主な意見 |
|---------------------------------|---|
| (1) 緊急時の官民の情報共有、連絡・連携の仕組みの実効性確保 | <ul style="list-style-type: none">・演習では、他のセクターや事業者の対応状況をホームページで確認することができ、有用だと感じた。類似した情報共有の仕組みの構築を検討してはどうか。・障害への対応で忙しい状況では他分野の情報収集は困難なので、NISCからの情報提供はありがたい。・NISCからの情報提供は、既知の内容が多く、遅いと感じた。運用形態的に遅いのは仕方無いが、「早期復旧・拡大防止」の観点における情報提供の目的を改めて整理しておく必要が有るのではないか。・情報は参考になるが、誤った情報が入っていると混乱する。NISC等が、情報の信頼性を保証してくれると良い。 |
| (2) 平時における官民・事業者間の連絡・連携の状況 | <ul style="list-style-type: none">・演習に備えた事前準備の段階で、ホームページに障害が発生した際の連絡窓口設置の必要性を認知することができた。 |
| (3) 緊急時の各主体におけるIT障害への対応要領・手順の確認 | <ul style="list-style-type: none">・緊急時の対応フローを整備することは有効であり、障害発生時の臨時的な対応体制をあらかじめ取り決めておく必要性を感じた。・業界他社が被害に遭っていて当社が被害を受けていないというような場合に、影響がないことの状況報告を進んで行くかどうかの基準があった方がいいように思う。 |
| (4) 相互依存性解析の結果の検証 | <ul style="list-style-type: none">・今回のホームページ異変については、ある程度個社のレベルで対応可能な範囲と感じた。・今後の演習では、重要インフラ分野のサービスの停止・低下が他分野の基幹業務システムにも波及するようなシナリオを取り入れてはどうか。 |
| (5) 実施細目の見直しに向けた課題の抽出* | <ul style="list-style-type: none">・現在の情報共有範囲に含まれていないグループ内企業や組織外のアウトソーシング先などについても、業務の遂行に必要な場合や関係先として情報提供が有益と判断される場合があるため、共有範囲の拡大を検討して欲しい。・障害によってシステムを利用する国民等に生じている影響の度合いやサービスの復旧の見込みなどを記述する欄を設けることを検討してはどうか。 |

*検証課題(5)に対する意見は、演習において事業者等がNISCや所管省庁との間で送受信した情報や様式に対するもの